



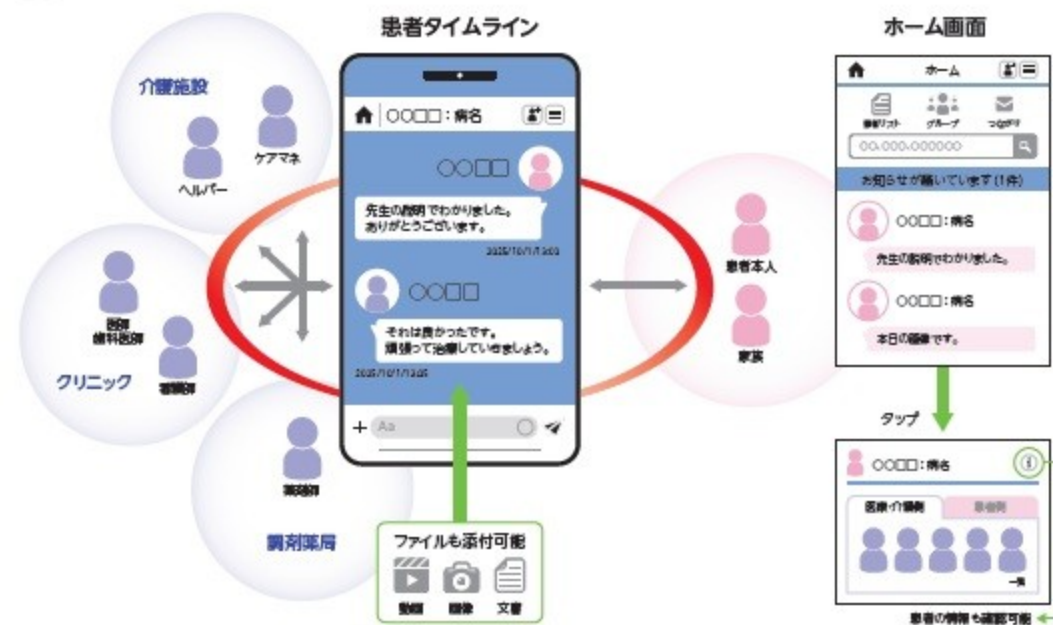
が可能で¹⁾、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」、経済産業省・総務省「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」のガイドラインに準拠していることから、セキュリティ面でも安心して利用することができます¹⁾。加えて、医師、看護師、介護士、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなど関わり合いのある多職種が、患者さんの情報とともに薬剤選択や診療情報などについて様々なニーズをSNS上で共有し、お互いに非接触の環境下で対処していくことが可能となっています。電話やFAXなどで生じていた手間と時間が多職種連携の障害となることがありましたが、奈良あんしんネットでは入力情報が時系列で保存され、多忙なときでも時間・場所を選ばず閲覧することが可能であり、時間を調整してミーティングを開く必要もありません。こうした利便性によって医療従事者の新規登録が増えつつあります。2025年7月31日時点では、奈良あんしん

ネットへの医療従事者の登録者数は奈良市のみのデータで総計771人、登録施設は総計395施設に上ります³⁾。今後の奈良あんしんネットによる多職種連携の促進に対する期待がうかがえます。

COVID-19診療における奈良あんしんネットの活用

COVID-19診療における奈良あんしんネットの活用の1つとして、抗ウイルス薬処方時の活用が挙げられます。抗ウイルス薬の処方では薬物相互作用の確認が必要になることがあるため、医師が予め薬剤の準備と併用薬における相互作用の確認を薬局の薬剤師に依頼しています。そして、薬局の薬剤師だけではなく医師も併用薬の相互作用を確認しています。在宅の患者さんへの処方については、薬局の薬剤師が直接自宅へ届けるとともに、薬の説明も行っています。薬剤師から患者さん

図1 奈良あんしんネット模式図



- 立場を越えた多職種間で患者についての情報をSNSで共有。
- 医療・介護に特化した情報共有権限管理を実装。
- 患者ごとに連携する「メンバー」を招待。自由に設定。
- 患者や家族の参加も可能。